

令和6年度第1回佐世保市子ども・子育て会議分科会(施策1・4) 議事録(要約版)

日時: 令和6年8月26日(月)18時55分～20時50分

場所: 中央保健福祉センター(すこやかプラザ)8階「講堂」

議事(1)次期「させぼっ子未来プラン」の策定について	
議事(2)次期「させぼっ子未来プラン」策定に向けた佐世保市の子どもと子育てを取り巻く現状と課題	
質問・意見等	事務局回答・今後の方針など
行政はアンケート結果を見てどう思われたのか。 アンケート結果内容は、想定した範囲以内の回答が得られたのか、どの程度、傾向や状況を反映できているのか、前回のアンケートと含めて、違いや変化、特徴など、終えての感想を伺いたい。	小学生、中学生及びその保護者へのアンケートは新たな取り組みであり、いろんな状況や実態を把握するために行ったものであった。そのため、事前の予測は行っていなかったが、次回以降、定点観測として経過を把握していきたい。 また、調査結果が出たので、次の計画の中で取組を講じていくかが課題。2 回目の分科会では、この課題を踏まえながら、議論いただくことを考えている。 感想としては、朝食を食べないと回答した子どもの多さに驚いた。食べていない、用意されていない状況について、家庭教育・生活に対して心配するところであった。 定点観測をしていく中で、これがどのような形になっていくのかも含めて、トータル的に見ていきたい。
資料3の7ページ「①利用者支援事業」について、他の事業は、実績として利用者数や件数が出ているが、利用者支援事業については、箇所数として記載がある。 これでは、ニーズがどのようなものがあるのかわからない。どのような相談があっているのか知りたい。	利用者支援事業の目標設定が、利用実績ではなく、箇所数となっており、相談状況等がわかりづらいということは、令和4年中間見直しのときにもご意見をいただいていた。 事業計画については、国が示しているガイドラインに基づいて作っているが、次期プランについては、ガイドラインに沿いつつ、ご意見をいただいた点について、検討をさせていただきたい。
資料4-1の5ページ目、「小・中学生の保護者に対するアンケート」のうち、子ども食堂の利用に関する回答について、いわゆる低所得者と言われる方や、ひとり親の世帯にニーズがあるのは理解していたが、それ以外の方でも利用したいと回答されている方もある。この点について、どのような見解をお持ちか。	子ども食堂は、単に貧困対策というだけでなく、人との繋がりを作る場所であると考えており、アンケートの結果には、その点について表れているものと考えている。
アンケート結果の数値、具体性を伝えられると受け取る方はわかりやすいので、主要な項目については、もっとわかりやすくアピールできるよう、しっかり整理したほうが良い。 アンケートの回答には、回答された方の様々な期待が込められている。	市民の皆さんからいただいたアンケート回答を受けた、我々の考えや対策など、いかにアピールをするのが大切かと思う。 広報する際には、見せ方を考えながらやっていきたい。

回答が反映、実現されたと実感を与えられるような、目玉と位置づけられるものがあったても良い。	
例えば、自衛隊と米軍が共存している環境は、佐世保ならではのと言えると思うが、男性の育休の取得率が10%しかないのは、このような環境があるからなのかもしれない。佐世保の特徴を把握し、もっとバックアップするような佐世保ならではの施策を盛り込んでどうか。	各自治体が、同じような項目を調査していれば、比較論として佐世保の特徴を見出すことができるが、現状では他自治体の回答内容が手元にないので、推測しかできない。 類似する自治体に特定の項目を尋ねて、佐世保の特徴、違いを比較可能であれば調査をし、まとめられればと思う。 今後の課題としたい。
子ども食堂は貧困対策ではないので、もし「子ども食堂＝貧困対策」という言葉が広がると、今、子ども食堂を居場所として考え、子ども・大人等の垣根なく食堂に来ている方たちが来づらくなるのではないかと懸念があるので、そこは注意していただきたい。 月に1回、食事を提供するだけでは貧困を解決する対策とはならず、貧困対策として盛り込むことは危険と考える。 他の家族との交流を通じて、自分の家との比較や、体験ができたりするのが子ども食堂の特徴でもある。 子ども食堂の実態を、もう少し施策のなかで知っていただきたい。 どのようなことが貧困対策なのか。 例えば、福岡では朝食を毎日学校で出すような取組がなされている。そういうことを抜本的にやらないと、貧困対策とは言えないと考える。	子ども食堂＝貧困対策とは決して思っていないので、計画上の位置付け等に関して我々も十分そこは注意したい。 今回、アンケートを実施するにあたって、そういう誤解が生じないように、子ども食堂の説明を入れる等の配慮を行った 今後のプラン策定にあたって、十分注意してやっていきたい。
不登校の児童・生徒は、アンケートに回答したのか。	今回の各小・中学生に対するアンケートは、各小・中学校の校長にお願いをし、学校を通じて児童・生徒、保護者に案内をした。 また、回答にあたっては、学校にて配付されているタブレットを介して行っていただいた。 不登校の児童・生徒にも、タブレット端末は配付されていると思うが、アンケートに関する情報が行き渡っているかまでは、確認できていない。 この点については、今後の課題と捉えている。 さらに、保護者のアンケートは、回答率が悪かったため、保護者に対する周知についても課題だと思っている。

乳幼児・小中学生等への医療費助成について、アンケートの回答の中に、中学生まで無料にして欲しいとあるが、現在、中学生の医療費の自己負担はどれくらいなのか。 また、予算額として、どの程度の規模なのか。	本市における福祉医療費の個人負担については、1か月あたり1病院ごと1日800円、2日で1,600円を上限に助成している。 1病院・1か月当りの負担上限1,600円であるので、複数の医療機関にかかれば、それぞれ負担が必要となる。 ただしこれは、自治体ごとの制度なので、医療費の自己負担がない自治体もある。 令和6年度予算における福祉医療費は、総額7億8,000万円計上しており、その内訳としては、乳幼児分が2億3,000万円、小・中学生分が3億1,000万円、ひとり親家庭等が1億1,000万、高校生世代等が7,500万となっている。
資料4-2 1ページ、保護者へのアンケート設定について、設問として「子どもの教育費や医療費などの経済的な不安」となっているが、医療費と教育費を分けて聞く方が良かったのではないかと感じる。 例えば、医療費だけの問いかけであれば、もしかしたら満足度上がっていたのではないかと感じる。 教育費の負担は大きいと感じる方は多いと思う。	ご指摘のとおり、アンケート設問として分けて問いていけば、違いはあったかもしれないが、この設問に関しては、定点観測として前回、前々回から継承している質問であり、ただ、比較していくことも大切だと考える。 今の設問は担保しながら、別の視点での尋ね方をして、我々の取り組んでいる部分も、別の視点での評価できるような仕組みが必要かと思う。次回の課題としたい。
資料6の施策4 経済的支援に関する自由意見のなかに、習い事の補助との記載がある。 保護者に対するアンケートにも設設問があったと思うが、他の自治体において、習い事への支援をやっているところは現実的にあるのか。	習い事に対して支援を行っている自治体はある。
資料6に記載されている取組の方向性のうち、大学生にとって、一番身近な項目は、妊娠出産等に関する知識の普及になると思うが、佐世保市出身ではない大学生にとって、佐世保市の政策に興味や関心が低い。 まずは、広報紙などにおいて、データをのせて、市内出身以外の人にもわかってもらえるような、広報活動がいいのではないかと感じる。 また、妊娠や出産に関する教育を受けた記憶があまりないので、もっと積極的にやってもいいのではないかと感じる。	義務教育の年齢になってからは、それぞれの段階において、授業のカリキュラムの中での話になっている。 また、大学生に対する佐世保市の取組としては、保健福祉部における感染症予防に関する話が主になっている。 現在、将来、出産して子育てして、生活をしていくかということ、ライフデザインを、大学生のうちからトータル的に考える、プレコンセプションケアが始められている。 佐世保市の現状としては、各課が個別に取組を実施しているので、18歳までのすべての方に行き届いているとは言えない状況がある。 今後は、このような取組を、幼少期から継続的に、大学生や専門学校の世代になるまで、一体的に実施する必要があるように感じる。

結婚してから育児講座やマタニティ学級を受けるのではなく、もっと前から教育をする必要があるのではないか。教育を通じて、自身が妊娠した際に、子どもを産み育てることができるかどうかということを判断することができ、それがひいては貧困対策にもなるのではないか。もう少し、具体的に継続的に教育の中でやっていくのは大事だと思う。	出産後の子育てのイメージがつかないという方が多い。事前の準備など不足する中で、いきなり育児本番を迎える感じがある。 周りに子育てをしている人がいればイメージしやすいと思うが、核家族化の進行で、周囲に子どもが少ない環境の中で、結婚・妊娠・出産・子育てということを、いつ・どのように、小さいうちから伝えていくかは、生の声を聞かせていただきながら、教育委員会とも連携しながらやっていかなければならないと思う。
議事(3)その他	
質問・意見等	事務局回答・今後の方針など
	本日の議事録については、内容を集約し後日送付する。委員の意見については、文面による計画の骨子案として形づくることになるが、事務局で整理し、分科会長に確認、同意をいただいた上で次回の分科会の方にご提示をしたい。 次回の第2回分科会については、日程調整の上、改めてお知らせしていく。